

史跡大枝山古墳群の整備

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 整備が終わった1987年当時の古墳公園(南東から) 手前の円墳は6号墳、周辺の樹木も育っていない。

大枝山古墳群は23基からなる古墳時代後期の群集墳です。大規模な住宅地開発に先立って1980・83・87年に発掘調査が実施された結果、残された古墳は開発業者によって古墳公園として整備されました。その後、長く閉鎖状態でしたが、2000年に京都市指定史跡となり、2010年に地元企業有志によって繁茂していた樹木が整理されたことに端を発し、翌2011年には「桂坂古墳の森保存会」が結成されました。同年、開発業者から古墳群のある3.7ヘクタールの土地が京都市へ無償譲渡され、今では保存会の熱心な管理・清掃活動の下、春と秋の公開では多くの市民が見

学するところとなっています。

1987年に古墳公園として整備されたのは古墳群中心部の13基(写真1)と、移築復元された古墳1基です(14号墳・写真8)。これらは横穴式石室を主体部とする古

墳であり、公園に整備するにあたって次のような手が加えられました。

内部を公開するため15・21号墳では入口部分が整備されました(写真2)。石室内部が観察できた11・18・20号墳はそのままでは危険な



古墳公園の配置図(13・17は欠番)



写真2 15号墳 開口部の不安定な石材を積み直した。



写真3 11号墳 石室内部は土を入れて封鎖した。



写真4 18号墳 開口部は土とブロックで封鎖した。



写真5 20号墳 天井部の隙間を土とコンクリートで封鎖した。



写真6 6号墳 墳丘に土を補充して芝が植えられた。



写真7 園路の整備 階段を設置した。



写真8 園路の整備 右に移築された14号墳がみえる。



写真9 正門広場には4号墳の天井石が設置された。

ため、石室内を塞ぐ処置がとられました(写真3～5)。墳丘が削られていた6号墳などでは土を補充し、芝生が貼られました(写真6)。公園の出入口は3か所設けられ

ました。東口の正門広場は石敷きとし、4号墳の天井石が置かれました(写真9)。2011年には説明板も設置され、公園内の園路としては階段と通路が整備されました

(写真7・8)。

なお、「古墳の森」を見学するには、事前に京都市文化財保護課(電話075-366-1498)への申し込みが必要です。(丸川義広)